

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年 1月 4日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ソウル大学校
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 民間企業(業界: 製造業)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

大韓民国を代表する国立大学。16の単科大学から成り、人文科学の分野では特に経営管理大学が著名。

留学した動機

海外市場頼みの日本の製造業で働くに当たって、海外の様々なバックグラウンドの人々と議論、交流する経験が強みになると考えたため。中でも韓国を選んだ理由は、少子高齢化によって縮小する国内市場への対処など、日本と共通する社会経済構造が自国の比較対象として興味深いと思ったため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部4	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	8月~	2016年	12月	
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	年		年生の		学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016年	学部4	年生の	6月頃に	行った
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		84	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			9単位	
	留学後の取得(予定)単位			4単位	
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2012年	4月入学	2017年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

就職活動を経て、卒業後の進路が凡そ判明した後であれば学びの目的がはっきりすると思ったため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

留学先の学内審査が終わった後から交換担当の方よりメールで事務手続きの連絡をいただいた。書類の作成が大半。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

留学(D2)ビザ。南麻布の韓国領事館へ必要書類を携えて申請。特に待ち時間もなし。約1週間後に改めてうかがいビザ受領。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

大学の寮の入寮手続きの過程で、はしか・水疱瘡・おたふく風邪・風疹の予防注射接種歴や、胸部X線検査を証明する英文診断書が必要。結果的に大学の寮には入らなかったが、診断書は本郷キャンパスのトラベルクリニックにお願いした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学指定の学研災付帯海外留学保険に加入。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

卒業論文の提出を以て卒業とするため、留学前のS1タームに卒業論文指導の履修登録と卒業論文題目届の提出は完了させた。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

TOEFLのスコア取得後の英語学習は、卒業研究関連の英語文献の精読の他、日常的に海外小説の朗読を聴くことなど。韓国語の素養はなかったが、数週間でハングルを一通り勉強し、発音だけは理解できるようになった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

持参した方がよいものは、SIMロック解除済みのスマートフォン、電子機器の変換プラグ。出発前にやっておくといことは、ブログ等を通して、留学経験者が滞在中に感じる一般的なやりがいや後悔を一通り把握し、自分の滞在すべきこととしなくて良いと思うことを区別しておくこと。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Intermediate Accounting	3	●			
Managerial Accounting	3	●			
Aging and Social Welfare	3	●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

最も印象に残っている講義は、「高齢社会と社会福祉」。本講義の教員の方は米国の教科書の内容の輸入・紹介よりも、韓国の問題を紹介や、様々な国から集まっている学生への問題提起、議論を重視していた点で、自分が留学で求めていた受講経験に最も近かった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

3科目、計9単位を履修。1科目で週3時間弱の講義。授業外では予習よりも復習に時間を割いていた。授業内容にもよるが、財務会計の講義は毎週5、6時間ほど復習に充てていた。

④学習・研究面でのアドバイス

講義自体に何を求めるかは人それぞれであるはずだが、個人的には授業内での議論の機会があるか、グループワークの課題があるかといった観点で受講科目を決めてもよかったかもしれないと思っている。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

オランダ、ドイツを始めとした欧州からの留学生の流暢な英語は聞き取り、反応を返すことに苦労した。特に授業外での会話で頻繁に話題が変わる局面は不慣れなままであった。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舍の様子、見つけた方法など)

大学から徒歩20分強のアパートの一人部屋を借りた。家賃は1ヶ月48000円。留学先の大学の交換担当の方に紹介を依頼していただいた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

住まいにキッチンがなかったため全て外食。大学の学食は定食が200円-400円と安く、週5,6日昼夜利用した。冬は寒冷で、11月頭には氷点下を記録した。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

ソウルの中心からほど遠い立地であるため、当時の政権への大規模なデモが起こった際も緊張感はなかった。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

計130,000円(家賃48,000円、食費45,000円、交通費3,000円、娯楽費20,000円、衣類10,000円、生活必需品4,000円)

・留学に要した費用総額とその内訳

計540,000円(基本出費470,000円、航空賃40,000円、教材費30,000円)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

Fung Scholarshipにより、月70,000円支給していただいた。こちらは全学交換留学の申請過程で東京大学より紹介いただいた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

現地で知り合った韓国人学生、交換留学生と食事や山へハイキングへ出かけるなど、日帰りで楽しめる余暇が中心であった。ソウル大学校の交換留学生のネットワーク(SNU Buddy)に留学以前より加入することができ、そこで出会う学生は滞在中の交友関係の中心となった。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

受け入れ担当の方に大変お世話になった。住まいの紹介に始まり、滞在先の大家との取次ぎ、外国人登録手続きについてのアドバイス、月々の奨学金関連の書類へのサインなど滞在前からしばしばやり取りがあった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は新館が築1年半であり、自習空間として大変快適であった。食堂は前述のとおり頻繁に利用し、栄養バランスのとれた韓国料理をいただいた。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

就職活動と並行して留学準備をしていたが、そうした行動はもともと関心のあった「海外」という仕事選びの一つの軸を補強する要素となり、自信につながった他、面接での話題にも利用できた。デメリットについては特にないが、強いて言えば留学費用を少しでも賄うためにアルバイトを続ける必要があった点。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

直接経験はしていないが、留学経験が自分にとって挑戦と表現できるものかという点を絶えず意識し、行動を軌道修正しながら過ごしていると、将来自分を採用するか判断する企業、組織の担当者に留学経験を魅力的に伝えることができると思う。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1. 研究職 |
| <input type="checkbox"/> | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| <input type="checkbox"/> | 3. 公的機関(機関名:) |
| <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 5. 民間企業(企業名又は業界: 製造業) |
| <input type="checkbox"/> | 6. 起業(分野:) |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学の意義は、自己管理を意識して実践する機会になる点にあると感じた。卒業前の最終学期ということで私は卒業論文の研究を留学と並行して進めなければならなかった。当然、留学先での単位取得に向けて日々勉強に励む必要もある上、他国の学生と知り合い、意見交換する機会も重視していたため、それらを両立させる必要があった。それぞれの活動は時間や労力をいくらでもかけられるくらいやりがいがあることであったが、自分はそのらをバランスよくこなすことが重要であり、目標であった。そのため、1週間の生活を同じリズムで過ごすことを徹底した。もともと私は複数のことを全力でこなすことは苦手であり、目標は1つに絞る方がうまくいくタイプであった。留学期間中もスケジュールに従って物事を中断ないし再開することに不安を感じることも多々あった。結果としては、やり切ったと思えることもあれば後悔が残る面もあるが、自分の決断に不安を感じながらも目標に向けて日々取り組んだことは、次の挑戦の際の自信になると思う。

②留学後の予定

卒業論文を提出して卒業、学生生活最後の長期休暇。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学を志望する動機の中に面白そう、挑戦し甲斐がありそうという感情がある人にとっては、何はともあれ試してみる価値のある経験であると思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。